

6 メイン球場の規模・構造

本公園の核となるメイン球場については、現在の需要見込みに合致し、PFI事業の成立が見込め、さらに規模・構造の変更が可能なことを踏まえ、以下の3案に絞り込みました。

■ 1.3万人の屋外型（愛鷹球場相当）

- ・建設費・維持管理費が最も安価であり、最低限必要な規模
- <留意点>
- ・プロ野球を開催するには規模が小さく、イベントを開催するには天候の影響を受ける

■ 2.2万人の屋外型（草薙球場相当）

- ・県西部地域の拠点球場としての役割や、都市規模に応じた草薙球場と同規模
- <留意点>
- ・プロ野球は開催可能であるが、イベントを開催するには天候の影響を受ける

■ 2.2万人の多目的ドーム型（地元が要望する規模・構造）

- ・野球以外の幅広いイベントも開催可能な構造
- <留意点>
- ・地元（浜松市・経済界）による公園周辺のまちづくりやプロ野球以外の大規模イベント誘致によるにぎわい創出の具体化及び交通アクセスの改善
- ・地元（浜松市・経済界）や民間企業からの建設費・維持管理費の負担や再生可能エネルギー活用等による利用料金の低減

● 屋外型(1.3万人)のイメージ



静岡県営愛鷹球場（愛鷹広域公園提供）

（R4算出）

概算事業費	70億円
年間維持管理費 （大規模改修費除く）	0.5億円

● 屋外型(2.2万人)のイメージ

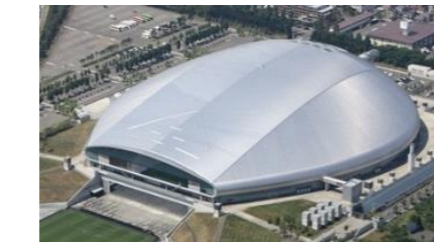


いわて盛岡ボールパーク（盛岡市提供）

（R4算出）

概算事業費	100億円
年間維持管理費 （大規模改修費除く）	0.7億円

● ドーム型(2.2万人)のイメージ



札幌ドーム（札幌市提供）

（R4算出）

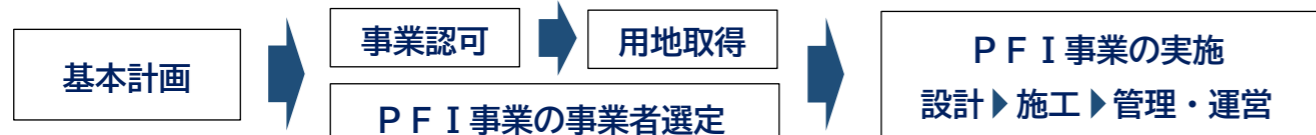
概算事業費	370億円
年間維持管理費 （大規模改修費除く）	1.3億円

7 事業手法

民間事業者のノウハウを活用することで財政負担の軽減を図ることが期待でき、さらに民間資金を活用することで、財政負担の平準化も見込める官民連携事業の手法であるPFIにて事業を実施することを基本とする。

8 今後の進め方

基本計画策定後、国の事業認可を取得し用地取得を進めていきます。また、併行してPFIによる事業実施に向けて、事業者選定の手続を進めます。



遠州灘海浜公園（篠原地区）基本計画（素案） 概要版

1 背景

遠州灘海浜公園は、浜松市沿岸部に位置し、中田島砂丘や松林などの浜松市を代表する景観を有する広大な公園であり、天竜川河口地区、中田島地区、篠原地区、沿岸地区で構成されています。

篠原地区につきましては、東日本大震災を契機に当公園を含む沿岸部にて防潮堤の整備が進み、地区をとりまく状況が大きく変化したことをきっかけに、スポーツ等の活動拠点となる公園の整備に向けて、公園の基本方針と導入が望ましい施設等について検討を進めてきました。



- 篠原地区を西側から臨む(左写真)
篠原地区内には、既に浜松市により総合水泳場(ToBiO)が整備されており、その他は玉葱畑等が広がる自然豊かな景色が広がっています。
また沿岸部は、アカウミガメの産卵地としても有名な国内有数の長大な砂浜が広がっています。

2 基本計画策定までの経緯

- 昭和37年12月 都市計画決定
- 平成28年5月 遠州灘海浜公園基本構想を策定
- 平成31年3月 基本計画の検討を開始
県民やスポーツ関係者等から意見聴取を行い、複数の公園整備プランを作成
- 令和2年3月 比較検討プラン<原案>の公表（コンセプトの異なる3つの公園整備プラン）
- 令和4年7月 環境影響予測調査の実施
アカウミガメの子ガメの動向が人工光の影響を受けることを確認
- 令和5年3月 公園整備プランの選定（プラン3「みんなが楽しめる健康・スポーツ公園」）
- 令和5年6月 官民連携導入可能性調査の実施
詳細な需要調査を行った上で、野球場タイプの絞り込みや事業手法の検討等を実施
- 令和6年3月 基本計画(素案)を策定

3 コンセプト

「みんなが楽しめる健康・スポーツ公園」

豊かな緑地空間の中、野球を中心としたスポーツやレクリエーションを通じて、幅広い年齢層の県民が健康づくりに取り組むことができる公園

4 基本方針

- ・ 競技スポーツから健康づくりまで様々なスポーツを楽しめる空間の創出
- ・ 人々が自然の中で安らぎやアウトドアレジャーを楽しめる空間の創出
- ・ 生物多様性や地球環境への配慮
- ・ 効率化・コスト縮減とサービス向上を両立するため民間ノウハウや地域の多様な主体と協力した管理運営手法の活用

5 施設配置図

